

市立

いちかわ 自然博物館だより

令和 5 年(2023年)

10-11月号

(通巻 208号)

2023年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

スズメノトウガラシ類

稲刈りが終わった田んぼに生える野草です。田んぼそのものが絶滅に瀕する市川市内では、幻の存在です。

P1 🌻 いきもの写真館
スズメノトウガラシ類

P2 🌻 外来生物に関してー4
/ 大型船とともに
3

P4 🌻 センサーカメラとっておきをご紹介
アカネズミ

P5 🌻 長田谷津のとりたち
カケス

P6 🌻 くすのきのあるバス通りから
初見の庭の植物

P6 🌻 展示室 飼育生物の話題
青いアマガエル

P7 🌻 わたしの観察ノート
7～8月の記録

P8 🌻 ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。



大型船とともに

外来生物は海にもいます。世界中の海はひと続きですが、実際は気候帯や水深、陸地との距離など、場所によって環境はさまざまです。海はひと続きでも、海の自然はひと続きではありません。遠く離れた場所の海洋生物がやってくれば、それはもちろん外来生物になります。

チチュウカイミドリガニ

チチュウカイミドリガニという、「渡りがに」のイシガニに似たカニがいます。イシガニにくらべると全体に緑色を帯びていて、イシガニの平べったい泳ぎ脚にあたる脚が、細長い歩き脚になっています。名前の通り地中海に生息するカニですが、このカニが江戸川放水路に多数出現したことがあります。

国立環境研究所の侵入生物データベース（以下、データベース）には「1995～1999

年に東京湾で大発生した」との記述がありますが、当館に所蔵されている標本の採集年は1991年～1993年です。特に1991年は漁師さんから「見慣れないカニがいた」との連絡を受けて取りに行っているのも、まだ一般の人の目に触れる前の記録だったかもしれません。

バラスト水とシーチェスト

データベースによると、侵入経路として「バラスト水への混入」「シーチェスト（船体の海水吸入口）への付着」が可能性として挙げられています。

バラスト水は、空荷の船舶が船を安定させるために「重し」として取り込む海水で、出港する港で取り込み、行先の港で荷物を積むときに排出します。貨物船などが世界中の海を行き来することで、海水が遠く離れた場所に運ばれ流されているということです。海水とともに海の生き物がタンクに入り込み、生け簀のような状態で運ばれるイメージですが、実際はそんな



チチュウカイミドリガニ

江戸川放水路産を水槽で飼育して撮影（1993年1月4日撮影）。

に単純ではないようです。バラスト水のなかに生き物が入らないようにしようという国際条約もあり、フィルターや化学処理などによって相当数が除去されます。移動中に死滅もします。ただそれでも、すべてを除去しきれないのかもしれません。

シーチェストは、船体に海水を取り込むときに通すフィルターです。そのフィルターや配管にフジツボのような生物が付着し、海藻が生え、その隙間に小さな甲殻類などが紛れ込みます。こちらに対策は講じられていますが、フジツボのかたまりができれば、その隙間に小さなカニが住み着いて長い船旅をすることは想像できます。もちろん、海藻などは船体そのものにも付着するでしょう。ゼロにするのは、むずかしそうです。

江戸川放水路の外来生物

江戸川放水路で比較的に見つけやすい外来生物としては、イッカククモガニ、タテジマフジツボ、ムラサキイガイ、コウロエンカワヒバリガイ、シマメノウフネガイがあります。どれもチチュウカイミドリガニ以前から生息していて、比較的古い時代に住み着いたものです。



イッカククモガニ

浅い水中でカキ殻や海藻にまぎれている。

大型船とともに外来生物がやってくる仕組みは、人里植物が帰化植物として世界中に広がるのと似ています。人の身近で生育する植物のタネが物流網に乗って世界各地に広がるように、港湾で暮らす生物が大型船に乗って世界中に広がります。行きつく先も港湾ですから、住み着きやすいでしょう。外洋性の生物が船に乗って別の外洋に移動することは考えにくいです。

また、船の性能が高くなかった時代は、温帯の港で入り込んだ生き物は赤道を通過する期間に死滅していたかもしれません。船の高速化・大型化により、船体に入り込んだ生物が無事に赤道を通過できるようになったのかもしれません。

小さな池なら水を抜いて外来種を駆除することもできますが、海の水を抜くことはできません。世界中の海を数えきれないくらいたくさん的大型船が行き来している以上、生物の移動を完全に防ぐこともできないでしょう。国際的な物流に支えられたわたしたちの暮らしが、地域固有の生態系にも国際化の波を浴びせかけているということです。



ムラサキイガイ

ムール貝のこと。杭や護岸に付着している。



センサーカメラ とっておきをご紹介

自然博物館では、長田谷津(大町公園自然観察園)の斜面林内にセンサーカメラ(自動撮影装置)を2か所、設置しています。1か所は人工的に作った水場、もう1か所は「けもの道」です。記録は動画ですが、ここでは静止画像を切り取って紹介していきます。



アカネズミ

「おそらくアカネズミ」です。白黒の動画では、ネズミの種類を正確に特定するのは無理だからです。家屋やビルに住み着く「家ネズミ」に対して、野外で暮らすネズミは「野ネズミ」と呼びます。自然界では、生態系を構成する重要なメンバーの一員です。食う食われるの食物連鎖において、野ネズミは植物や昆虫を食べ、哺乳類や鳥類に食べられます。哺乳類や鳥類は、植物や昆虫を直接にも食べますが、一度ネズミの体になってからの方が1食あたりの資源量は多くなります。

長田谷津のとりたち

自然博物館で行っている鳥類調査の記録から
一押しのとりにちをエピソードと共に紹介します。

カケス

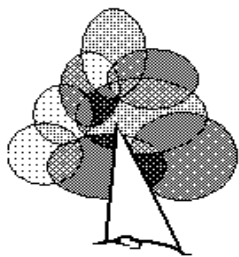
カケスはヨーロッパからアジアにかけて広く分布する中型のカラスの仲間です。長田谷津には越冬のために飛来します。飛来する時期は比較的早く、年によりますが、9月の中旬から10月初旬には長田谷津にやってきます（2023年は9月21日に初認）。渡去するのもかなり遅く、年によっては4月最終週まで見ることができます。ここ5年ほどは長田谷津と周辺で越冬していますが、過去には10月に飛来して、しばらく姿を消してしまった年もあったようです。年によって結実数に差がある、どんぐりなどの餌資源が要因だと思われます。近年の長田谷津では、カシノナガキクイムシによるナラ枯れの影響で、コナラの大木が何本もだめになっており、それに応じてどんぐりが減少している可能性があります。カケスの今後の変動に注目です。

鳴き真似名人のカケス

カケスは鳴き真似名人です。さまざまな鳥の鳴き真似をしますが、長田谷津ではオオタカの声をよく真似ています。非常に酷似しており離れているとどちらか、区別がつかないことがあります。カケスが長田谷津にいる間は、オオタカの声がしても疑ってかからないといけません。カケスの鳴き真似で、一番記憶に残っているのは長田谷津散策会中の出来事です。目の前の斜面林からツミの特徴的な下がり口調の「ピーピーピー」という鳴き声が聞こえてきました。参加者の方に姿は見えないがツミの鳴き声であることを説明していると、その場所からカケスがふわりと飛び上がり、目の前でツミの鳴き真似をし始めたのです。自然観察会を行っている学芸員がカケスに騙されてしまって、非常に恥ずかしい思いをしました。カケスの多彩な鳴き真似は博物館のホームページから、オリジナル動画「長田谷津(大町公園内) センサーカメラの記録 2021年2月・3月」に詳しく載っていますので、ぜひ動画をご覧ください。



こちらをうかがうように、オオタカの鳴き真似をするカケス（2020年4月12日 長田谷津）



初見の庭の植物

「7、8、9月それぞれ過去最高気温を記録。30度以上の真夏日90日を更新中」と気象庁から発表されました。夏の前に「今のうちに、庭の草取りをしないきゃ」と始めると、マツヨイグサにしては、花が小さいものがありました。自然博の方に聞くと「アレチマツヨイグサです。大きくなります」といわれ、どれだけ大きくなるのか放置しました。2mを超えました。他の空き地ではそこまで大きくなかったのも、立地条件によるのかなと思いました。

駐車スペースの辺りで見慣れぬ草があ

り、「三枚の葉がマメ科のような…花が違つか…」と図鑑にはなく、インターネットで「アフリカフウチョウソウ」だとわかりました。

タンポポなのですが、葉の切れ込みが浅く丸みがあり、ガクが反り返っていません。「雑種タンポポです」とのこと。1m位でフワフワ綿毛を飛ばしているキク科のものは「ダンドボロギク」だそうです。

どれも、今年初めて、我が家の庭でみた植物です。やっと気温が下がったので草取りを再開しようと思いました。

(M. M.)

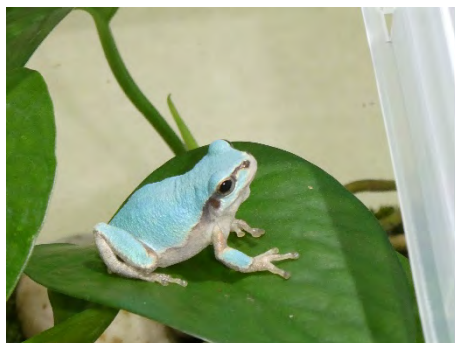
No.51

展示室 飼育生物の話題

青いアマガエル

「青いアマガエルを見つけました！」と電話をいただきました。「多くの人に見てほしいので、受け入れてもらえますか？」と続けました。当館の飼育展示には、持ち込みの生き物がわりといます。お断りする場合がありますが、スペースや手間などを考えた上で可能なものは受け入れています。青いアマガエルは、たいへん魅力的なお話しでした。というのも、すでにアルビノのニホンアマガエルがいたからです。これも持ち込みでいただいたものです。

通常の緑色、体色変異の青色、アルビノの白（黄）色の3色が揃えば、ニホンアマガエルの展示としては充実します。「よろこんで受け入れます」とお返事しました。ていねいにレイアウトされた飼育ケースでお持ちいただいたカエルは、まだ小さくてかわいい盛りです。固形飼料にも餌付いたので、長く展示していきたいと思います。



カラーはこちらから



◆長田谷津より

- ・湧水が流れる斜面で、ヤブミョウガがきれいに咲いていました(7/7)。いっしょに自然観察をした子どもたちにも教えたが、湧水に手を入れてオニヤンマのやごを探すことに夢中でした。
- ・強烈な日差しの中、タマムシが飛んでいました(7/12)。ちょうど見たいと思っていたので、よかったです。
- ・ホトケドジョウの繁殖を想定して作った水辺で、幼魚が確認できました(7/23)。湧水がつねに流れ込む浅い水場です。これから増やして行って、長田谷津のホトケドジョウの個体群を回復させたいです。
- ・ニオイタデが咲き出しました(7/31)。安定した群落があるわけではなく、地面の攪乱などによって出現します。草刈りのボランティアさんが気づいて残してくれました。周りの草を刈ってあるので、大きな立派な株がよくわかります。
- ・ミソハギ、ジュズダマ、ツユクサも咲き始めました(8/5)。もうすぐ立秋なので、花たちが動き始めました。

以上 金子謙一(自然博物館)

- ・バラ園の中央水路に小さなスッポンがいました(8/6)。すぐ下流の大池には大きなニホンスッポンが何匹もいるので、その子どもだと思われます。

以上 稲村優一(自然博物館)

- ・学芸員実習でハゴロモ類の擬態展示をすることになり、採集に出かけました(8/8)。いざ探すと見つからないものですが、アオバハゴロモ、スケバハゴロモ、ベッコウハゴロモを捕まえることができました。

金子謙一

- ・日没近く、薄暗くなった観察園では飛び回るクロコノマチョウをよく見かけます(8/27)。視認できるギリギリの暗さの時に飛んでいるのも見かけます。

◆動物園内より

- ・ケヤキの木の下にいもむしの糞がたくさん落ちていたので、双眼鏡で探すと、大きなウンモンズズメの幼虫がいました(7/27)。飼育展示するために高枝切ハサミで枝ごと落として採集しました。
- ・アベリアに絡んでいるヘクソカズラにホシホウジャクの幼虫がついていました(8/22)。褐色の幼虫と緑色の幼虫がほぼ同じ場所についていました。まったく同じ環境だと思うのですが、体色の変化はなにで決まるのでしょうか。

◆行徳より

- ・行徳図書館のすぐ横の木でクマゼミが鳴いていました(8/24)。ほかのセミが鳴いておらず、クマゼミの声しか聞こえなかったため、まるで関西にいるようでした。

以上 稲村優一

◆江戸川より

- ・今年最初のヒヌマイトトンボの調査を行いました(7/4)。オス、成熟メス、未熟メス、羽化直後の個体、すべてを見ることができました。7月14日の調査では、交尾しているペアを確認しました。メスは未熟色とされるオレンジ色の個体でした。

金子謙一

異常な暑さが続き、強烈な陽射しに日中屋外の人影はまばらでした。7月は雨もなくカラカラでした。8月に入ると局地的に猛烈な強い雨が時折ありました。

ホームページをご利用ください



自然博物館では、市川市域の自然に関する情報や解説を、ホームページ（webサイト）に掲載しています。展示室のパネルよりも、ホームページの方が情報量は格段に多いです。検索で「市川自然博物館」と入力していただき、下に示した画面が出てくれば、それが当館のホームページのトップです（検索1番目を開くと市川市役所のページに誘導されてしまう場合がありますので、その時は検索2番目を開いてみてください）。



ホームページの内容

- ・ご利用案内
- ・展示紹介、詳しい解説
- ・行事案内
- ・自然観察の記録、オリジナル動画
- ・博物館だより、出版物のご案内



＜行事のご案内＞

長田谷津は、
大町公園の自然観察園のもともとの呼び名です。

○長田谷津散策会

（申し込み不要・荒天中止）

季節の風景や動植物を楽しみながら、
ゆっくりと散策します。

集合：動物園券売所前 午前10時

解散：集合と同じ場所で 午前11時30分

○湿地の環境整備をお手伝いして

くださいませんか

（要問合せ・荒天中止）

学芸員と一緒に環境整備作業を行います。
たとえば……湿地の草刈、枯れ枝のかたづけ、
水路の整備、など

集合：観賞植物園 午前10時

解散：集合と同じ場所で 午前12時

初参加の方は・・・

お電話で博物館までお問合せください。

湿地の中に入る作業もありますので作業内容や
身支度などについてご説明します。

	長田谷津散策会	湿地環境整備
10月	15日 日曜日	29日 日曜日
11月	12日 日曜日	26日 日曜日
12月	10日 日曜日	24日 日曜日
1月	14日 日曜日	28日 日曜日
2月	11日 日曜日	25日 日曜日
3月	10日 日曜日	24日 日曜日

第36巻 第4号 （通巻第208号）

令和5年10月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
（市川市教育委員会生涯学習部）

〒272-0801千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477